

共同生活援助 港区立障害者グループホーム南青山 地域連携推進会議（令和7年度 第2回）		日付：令和7年10月29日
<委員>合計11名		会場： 青山ふれ愛テラス 青山区民協働スペース
港区立障害者グループホーム南青山 施設長 (社会福祉法人 大三島育徳会) 橋本 瞳子氏 港区保健福祉支援部障害者福祉課長 宮本 裕介氏 利用者代表 2名 利用者家族代表 1名 青山二丁目町会 村田 利衛氏、稻垣 行一郎氏、今泉 善雄氏 港区民生委員・児童委員赤坂青山地区 斎藤 美加代氏 港区立障害者グループホーム芝浦管理者 大谷内 望氏 アプローズHouse 南麻布 管理者 西原 由紀氏		時間： 午後4時00分 開始 午後5時00分 終了
<オブザーバー>合計3名		
社会福祉法人 大三島育徳会 竹中 毅氏 青山二丁目町会顧問 秋元 幸久氏 ほか1名 ほか事務局職員2名		
<議題>		
1 会長挨拶 港区立障害者グループホーム南青山施設長の橋本氏から、冒頭のあいさつを行った。		
2 施設概要説明 施設運営の経過報告に先立ち、グループホーム南青山の職員紹介（当日出勤の職員による簡単な自己紹介）を行った。		
橋本会長から、施設概要資料を基に、主に令和7年7月から9月までの期間を中心に、施設の行事、職員の概要、利用者の状況、利用者の生活スケジュール、地域行事参加状況、ヒヤリハット事例報告などを説明した。		
3 意見交換（要旨）		
(西原委員) ・前回の会議で挙がっていた課題に対して、色々考えて改善していることが分かりました。その中には、夜間の宿直についての心配もあったと思いますが、18時から20時まで、世話人と宿直が重なる時間帯があるということが、引き継ぐ時間が確保できて素晴らしいと思いました。また、資料に記載のあった地域美化活動は、地域と関わる良い機会だと思います。私の施設でも、参考にさせていただきます。誕生日会も、大変楽しそうな様子が伝わってきました。		
・この施設はまもなく利用者満床になると思いますが、利用者募集はどのように進めているのでしょうか。また、別途、緊急受入れ要請の案件に備えていますでしょうか。		
(橋本会長) ・利用者募集は港区が窓口となり、現在は随時募集をしています。緊急受入れ要請について、今は利用者満床を目指していますので、積極的には相談に乗っていないというのが実情です。なお、今年の年内から翌年1月には、満床となる見込みです。		

(西原委員)

- ・利用の希望者がいた場合、決定までどの程度かかるのでしょうか。

(橋本会長)

- ・申請に対して港区の入居調整会議があり、1か月はかかると思います。

(秋元オブザーバー)

- ・前回会議の議事録を拝見しました。「夜間の職員について、有資格でなく非常勤のことだが、対応は大丈夫なのか。」という意見がありました。それに対して、グループホームを運営している委員からの意見では、「資格はあったほうがよいのですが、最後は職員の人間性が大事です。」とのことでした。私は、この意見は主観的な意見だと思っており、やはり港区と施設が安全・安心を担保するために、夜間の職員は有資格者であるべきではないかと考えています。

(橋本会長)

- ・資格というのは、国家資格のことでしょうか。

(秋元オブザーバー)

- ・それも含め何らかの福祉関係の資格、あるいは夜間緊急時に港区との連絡方法を理解していることも必要でしょう。一方で、東京都の配置基準の資料では、非常勤職員も可とされていますが、その方が研修されているのか、あるいは長く雇用されているかは分かりません。そのため、夜間の職員は、施設の安全・安心のためにも有資格かつ正規雇用が望ましいと考えています。また、同じく東京都の配置基準の資料では、夜間支援員は直接介助をすると記載があり、その他状況に応じた就寝の支援、緊急時の対応をすることとなっているが、これらは、この施設では実施していますか。

(橋本会長)

- ・グループホームも様々な形態がありますが、当施設の利用者は自立度が高い方々であり、夜間、直接介助が必要のない方になります。また、昼間も皆さん、勤務先などに向けて移動に問題ないがな程度の社会性を備えており、生活の中で必要な声掛けがあれば問題なく生活できる方です。

(秋元オブザーバー)

- ・施設として、夜間の職員は非常勤職員で問題ないとえるのでしょうか。例えば、長く勤務しているのであれば、途中で資格を取得してはどうかと思います。

(竹中オブザーバー)

- ・当施設の運営法人における非常勤職員は、1日当たりの勤務時間は常勤職員と同じです。また、利用者への支援内容も同じです。中には、介護職として15年、高齢者施設で長い勤務経験のある者もいます。ただ、職員本人の意向で常勤職員にならないということを選択している方もあります。職員それぞれにライフスタイルへの考えがあり、資格取得を勧めることも大事ですが、それはあくまで個人の意思と考えております。一方で、当法人では職員向けの内部研修は必須としています。同性介助や虐待に関する研修を全員が受講し、報告書を提出するという形で職員育成に取り組んでおります。

(秋元オブザーバー)

- ・職員本人の希望は分かりますが、それでは、その職員が非常勤職員であることのメリットは何なのでしょうか。

(竹中オブザーバー)

- ・休暇の希望を出しやすかったり、その中で自分の余暇を充実させたりすることなどが挙げられますが、非常勤職員だからといって、支援の質が下がるということはありません。

(秋元オブザーバー)

- ・職員から休暇の希望が出た場合は、他の非常勤職員で対応するのですか。

(竹中オブザーバー)

- ・当法人が運営する他施設を含めたバックアップ体制を組んでおります。

(秋元オブザーバー)

- ・港区へ質問しますが、区内のグループホームで非常勤職員が何名いて、どのような形態で勤務しているか把握していますか。

(事務局)

- ・施設によって違いがあり、それぞれの施設で常勤職員、非常勤職員が勤務していることは把握していますが、非常勤職員の詳細の数字は把握していません。

(秋元オブザーバー)

- ・それについては、後日確認し、数字を教えてほしいです。ちなみに、港区にグループホームはいくつありますか。

(事務局)

- ・区内には 13 施設あります。

(大谷内委員)

- ・私は、港区でグループホーム芝浦の運営管理者をしておりますが、当施設では、職員は常勤職員のみとなります。

(西原委員)

- ・私が管理者を務めるアプローズ House 南麻布では、2名が常勤職員、2名が非常勤職員で、非常勤職員はそれぞれ、週3日、週1日勤務です。国家資格について、所持しているのは管理者の自分ですが、現在、介護福祉士を勉強中の職員もいます。その他、国家資格の受験資格を得るには実務経験も必要となるため、その経験を積んでいる段階の職員もおります。

(秋元オブザーバー)

- ・この施設ができるまでに 14 年かかり、その間、町会は施設の安全・安心のために地域連携推進会議の発足も求めてきました。会議は年に 1 回ではなく、頻回に開催し、利用者や地域住民も含めた安全・安心を考える機会であり、入居して良かったと思ってもらえるよう、より良い施設を目指し施設の在り方を考える機会でもあると思っています。
- ・私は、非常勤職員が良くないという意見ではありませんが、もし、この施設に事件や事故が起きた場合、その対応者が非常勤職員で良いのかどうか疑問を持っていたので発言をしました。

(橋本会長)

- ・ご意見、ありがとうございます。参加されている委員の皆様から、何かございますか。

(利用者家族)

- ・私は、娘がこの施設に入居し 3 か月が経ちました。先ほど町会の方から、安全・安心に、そして入居して良かったと思ってもらえるようにとありましたが、地域にも支えられながら過ごせている

ことに感謝しています。また、普段から職員の方々が密にコンタクトを取ってくださり、困りごとを相談したら親身になって解決策の提案をしてもらっているので、家族としては安心しています。今後も、施設の安定を願いながら、利用者家族として会議に参加したいと思います。よろしくお願ひします。

(利用者1)

- ・私は精神障害がありますが、勤務先も自宅もこの施設に近く、過ごしやすい環境であることに感謝しています。これまでも、散歩したり祭りに参加したりする中で、地域に馴染めている感覚もあります。職員の方々にも感謝しています。このまま安定した生活を送り続けたいと思っています。

(利用者2)

- ・先日、施設でハロウィンイベントがあり、顔にシールを貼ったり仮装したりしました。また、自分の好きな曲で踊りました。カップケーキ作りも楽しく、2個作った内の1個を食べることができました。

(稻垣委員)

- ・資料にあったヒヤリハット事故報告ですが、服薬を忘れたことは重大な事故と捉えています。この施設を整備する際、港区は、「利用者の服薬を忘れることはありません。」と言い続け、港区との話合いの大部分を、服薬の提供もれがないことの確認に費やしてきました。町会もそれを感じましたし、私はこの施設の建設当時、町会長として、この施設は服薬の事故が発生しないと説明もしていました。そのため、今回の責任は重いと考えています。施設への指導を徹底してほしいです。

(橋本会長)

- ・今後、同じようなことがないように徹底してまいります。

(宮本副会長)

- ・港区も施設設置責任者として、あってはならない事故と考えており、施設には再発防止策を検討するよう指示しました。

(稻垣委員)

- ・今後、また同じようなことがあったら、港区は責任を取れるのでしょうか。

(宮本副会長)

- ・これまでの経緯はおっしゃる通りだと思っており、重く受け止めています。次に同じようなことが起きないよう、施設の職員とも話し合い、また、この会議に参加されているグループホーム運営管理者の方々から工夫できることもいただきながら、より具体的かつ効果的な方法を検討します。

(橋本会長)

- ・施設としても重く受け止めています。再発がないようにしてまいります。

(秋元アドバイザー)

- ・この事故について、今後の対応策を着実に実行してほしいですし、その策について、次回の地域連携推進会議で報告してください。

(宮本副会長)

- ・対応策を再度点検して、再発防止策を次回の会議で報告します。

(村田委員)

- ・町会としては、これまで出た意見に対し、強く留意していただけると良いと思います。また、町会

の祭りでは、子どもに配るお菓子を詰めてもらって助かりました。

(今泉委員)

- ・先日実施した消防訓練について、私も消防団員として参加しました。当初、訓練に消防署から誰も来なくてよいのだろうかと思っていましたが、結果的には消防団員2名、消防署から3名参加し、しっかりと指導・訓練ができました。今後3月には、避難経路の点検の訓練があると聞いています。何かあればお手伝いできると思いますので、よろしくお願ひします。
- ・施設で何か事故が起きたらどうするかについて、これまで町会と港区で色々話してきました。今回、服薬をなぜ忘れてしまったのか、また、次からはこのようにするから大丈夫という安心を得られる説明をお願いします。
- ・夜間の職員について、その方が非常勤職員かどうかよりも、その職員がどのように対応するのかを示してもらえばと考えます。有事の際、施設に外から飛び込んでくる人がいるかもしれない、怪我人が出るかもしれない、その際の対処の仕方を今後示してください。

(斎藤委員)

- ・私は民生委員として、災害時要配慮者名簿を預かっている立場ですが、その名簿を受ける際に言わることが、「まずは民生委員が自分の身の安全を守ること」、「民生委員が皆を助けようと思わないようにしてほしいこと」です。実際、東日本大震災の時も、災害発生後の力仕事は男性の方に担っていただいたように、地域で助け合うネットワークができていれば、有事の際も乗り越えられると思います。地震が起きれば、この施設のみではなく地域全体が影響します。その際、民生委員としても地域の一員として協力できることはさせてもらいますし、この施設だけが孤立して助けが必要というわけではなく、地域にも様々な方がいて、サポートできる方もいます。今後も、地域として助け合えれば良いと思っています。

【閉会】

(橋本会長)

- ・本日は様々な意見ありがとうございます。いただいた意見を施設運営に活かすとともに、施設からお示しできる資料についても、今後お示していきます。
- ・次回の地域連携推進会議は、令和8年1月28日(水)を予定しています。よろしくお願ひいたします。

【終了】